

11月の活動報告 (住民の安全を求めて 国や県、電力に申し入れ)

予想される宮城県沖地震と女川原発。万が一の時、取り返しがつかない事態にしないために！

もう隠し事はないですか？

また東北電力の隠し事がでてきました。2年前、2003年5月26日の宮城沖の地震で、想定外の揺れがすでに起きていました。わずか震度4や5弱の地震で、2度も想定外の揺れを繰り返す女川原発に、どうして安心できるのでしょうか。

東北電力は、住民の不安をよそに「基準の見直しも耐震補強も必要ない」とのこと。国はそれを認めるのでしょうか。本当にもう隠し事はないのですか。

高野博元町議は、東北電力のこのような安全無視、営利優先の姿勢をただし、がんばります。



11月28日電事連と原子力安全委員会に

「最大の地震を想定して」とのこれまでの説明はどうなるの？

これまで国と東北電力は「およそ現実的ではない限界的な地震」を想定し、設計しているから、「安全が確認されている」と説明してきました。ところが今度は「限界地震動」を上回るあらたな「安全確認地震動」を用い「安全宣言」をしようとしています。「限界地震動」ってなんだったのでしょうか。

高野博元町議は 28日、原子力安全委員会に出向き、「もし電力の言うとおりになら、これまでの説明を撤回し、謝罪したうえ、安全審査のやり直しをすべきだ」と厳しく指摘しました。

高野博のフレッシュ便 NO.1



発行 日本共産党女川町委員会

2005年12月4日(日)

電話 FAX 53-3614

携帯 080 6016 3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi/>

11月 6日 後援会バスツアー



11月 7日 法律相談 仙台へ

11月10日 宮城県へ申し入れ



11月11日 東北電力へ申し入れ

11月16日 東北放送でニュース報道

11月16日 法律相談 仙台へ

11月23日 仙台へ 父を見舞いに

11月27日 東京 全国センター総会

11月28日 東京 電事連、安全委員会へ申し入れ

11月29日 仙台 「明るい会」の会議

12月の活動報告

東北電力も国も、そして町も、自然からの警告に謙虚に耳をかたむけるべきではありませんか。

暴走する東北電力と原子力安全保安院

経済産業省の原子力安全保安院は、はじめから3回の会議を開き「安全宣言」を行うと決めていたのでしょうか。このようなやり方は必ず破綻します。町民の不安は増すばかりです。

国や電力にとって、今回こそ耐震指針の見直しができる絶好の機会ではありませんか。そして、最新の知見にもとづき、安全審査のやり直しと、必要な耐震補強工事を行うことが、住民の安全に責任を負う行政の姿ではありませんか。私たち日本共産党は、東北電力を敵視しているわけではありません。電力の「社会的責任」を果たすべきと、これからも運動を続けます。

庶民大増税と消費税増税を許さぬ、国民の世論と運動を

定率減税の廃止を来年の1月に半分、再来年には全廃するという自公政権。消費税増税の旗振り役の民主党。国民いじめではすでに大連合ができあがっているのです。

国民の暮らしを守るためにも、「たしかな野党」日本共産党の前進が切実に求められているのではないのでしょうか。

私たちが女川で、増税を許さぬ世論と運動を大きくするためにがんばります。

署名にご協力下さい。数千万の国民の意思を示そうではありませんか。



2000年8月3日「福島民報」の記事
福島第一原発6号機のトラブル。金属疲労で細管にひびが発生していた。それが地震の揺れが加わり破断したと報道。
女川原発もシユラウドや再循環配管にひびをかかえ、地震は本当に心配です。



12月22日 消費税増税反対と原発問題で街頭演説を行いました。

高野博のフレッシュ便 NO.2



発行 日本共産党女川町委員会

2005年12月25日(日)

電話 FAX 53-3614

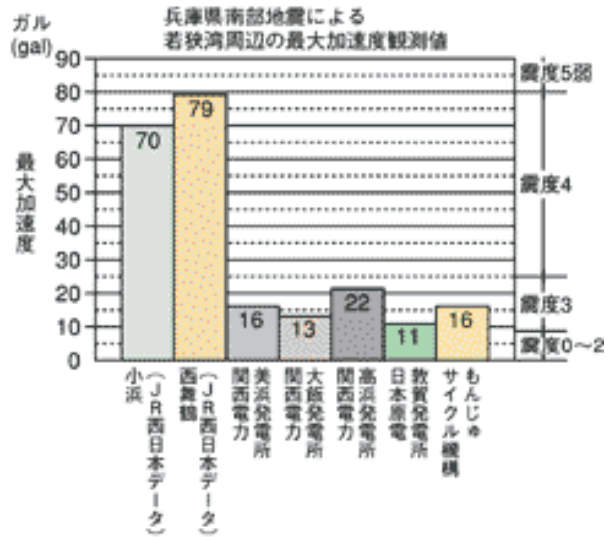
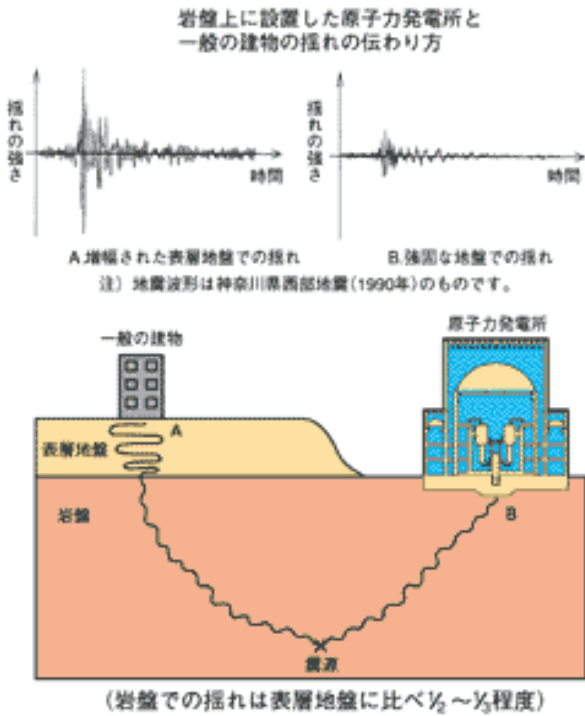
携帯 080 6016 3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi/>

- 12月 4日 日本共産党東部地区党会議
- 12月 6日 原生会事務局会議
- 12月 9日 法律相談 仙台へ
- 12月11日 日本共産党宮城県党会議
高野博が党大会代議員に選出される
- 12月12日 女川町議会一般質問の傍聴
- 12月18日 しんぶん赤旗ご購入のお勧め
- 12月20日 C S テレビ、日中会談不破報告
- 12月22日 街頭演説会
- 12月23日 しめ縄販売の準備

原子力発電所と一般建築物の揺れの差



出典：資源エネルギー庁パンフレット 他

国や電力は、「岩盤での揺れは表層地盤に比べ1/2~1/3程度」と説明してきたはずですが。

ところが、女川原発の岩盤の揺れは3度とも、女川町の役場の震度と同程度か、むしろ大きかったのではないのでしょうか。

	女川原発		女川町役場
	震度(推定)	(備考)	震度
1993年11月27日(土)	5弱	121ガル	3~4(推定)
2003年5月26日(月)	5強	自動停止	4
2005年8月16日(火)	5強~6弱	251ガル	5弱

ガル

加速度の単位。1ガルは、1cm/秒²のことで、秒速が毎秒1cmの割合で速くなる加速度を表す。

震度とガル数との関係は次のとおり。

震度	0	1	2	3	4	5	6	7
ガル数	~0.8	0.8~2.5	2.5~8.0	8.0~25	25~80	80~250	250~400	400~

(注) 従来分類。現在は計測震度計により計算処理されている。

説明のように、女川原発の岩盤が役場の1/2~1/3程度の揺れだったら、2度とも基準地震動S1やS2を超えるはずがありません。東北電力も国も、この疑問には答えていません。

平成18年1月の活動報告

耐震偽造、ライブドア、BES輸入牛肉問題、防衛庁官製談合と格差の拡大。規制緩和、「小さな政府」という小泉「改革」の正体・恐ろしさが見えた1ヶ月でした。

国・安全保安院は説明責任を果たすべき

女川原発は、結局耐震補強の改善工事も何も行わず、運転再開が強行された。間違った、低い耐震基準で設計された女川原発がそもそも安全であるだろうか。この前の数倍から数十倍ものエネルギーを有する想定される宮城沖地震で、膨大な放射性物質が住民に降り注ぐ危険は本当はないのだろうか。

この2年間で2度も基準を超える地震に襲われた女川原発、どこかでゆがみや不具合が発生しても不思議ではない。東北電力にあって隠し事はこの際、絶対に許されない。国は住民に直接説明を！



医療と介護について考えさせられたこと

お正月に父に倒れられ、医師から「延命治療をどうするか、家族で相談を」といわれ、「生きる」ということの意味を考えさせられた。また、直接世話する弟の妻と年老いた母は、「父が介護の費用を心配して困る。本当に1割負担で助かっている」と語ってくれた。また「通院の時は介護保険で車を呼べる。入院のためには使えないけど」などと説明され、複雑な介護保険の仕組みに驚きます。

- 1月 3日 仙台の実家に年始挨拶 父入院
- 1月 4日 父の容態・医師との協議
- 1月 5日 父の看病
- 1月11日 宮城県知事「プルサーマル容認発言」の記事が各紙に載る。
- 1月12日 原生会や県連絡センター、青野県議や水沢石巻市議、阿部律子女川町議とともに「容認発言撤回」を要請。「誤解」と知事訂正発言
- 1月17日 原生会・事務局学習会
- 1月18日～19日 「女川民報」編集
- 1月22日 会議
- 1月23日 原発耐震で宮城県に再度要請 石巻で会議
- 1月24日～「女川民報」の全戸配布
- 1月25日 東北電力による清水地区説明会
- 1月29日 会議
- 1月30日～31日 しんぶん赤旗の集金

高野博のフレッシュ便 NO.3



発行 日本共産党女川町委員会

2006年2月12日(日)

電話 FAX 53-3614

携帯 080 6016 3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi/>

この間、病氣見舞い。おかげ様で、父は持ち前の生命力を発揮し、流動食を摂るまでに回復。

毎週木曜日 高野博の生活相談日

小泉「構造改革」の政治のもとで、暮らしや福祉、医療への攻撃がだかりに進められています。こうした時だからこそ、専門家の力もお借りし、一緒に立ち向かいたいと思います。どんなご相談でも結構です。この日は時間を優先的に相談活動に使います。気軽に自宅においでください。

今年、町民の方からいただいた

年賀状の添え書きより

「県政よりもまずは町政を！油断をされずはやく元に戻り、この女川を恥ずかしくない町、質の良い町にしてください」

「庭のフキノトウが暖かい春を夢みて厳寒の冬をじつと頑張っています。先生の今後の活躍に期待いたします」

「宝物危うし、ゴミに出されそう」

「今年もご健康で町のため、皆さんのため頑張ってください」

「などなど、憲法9条を心配され、私たちの活動に、心温まるはげましを添えてくださって本当に勇気づけられます。頑張ります。」



みなさんと力あわせて、32年の議員活動から

私が1年と11ヶ月だけ勤務した女川第二小学校の教員を辞し、町議選挙に出たのは昭和46年(1971年)4月、28歳の時でした。生まれは塩釜市、育ちは仙台と地縁血縁のない私を、教え子のお父さんお母さんたちが必死になって押し上げてくださいました。

はじめて議会に出席しお昼になると、町長はじめ三役、課長、そして議員が一同に会して出前のドンブリを食べ始めました。私は自分の弁当を持参し、別の場所で食べました。次の日、またあの光景を思い出し「いやだなー」と思い「今日は家に帰って昼食だ」と1人決めていました。そこに大先輩の木村利吉議員さんが「俺も帰るから高野君帰ろう」といってくれました。それから、町で用意する昼食はなくなり、議員が自分でお金を出して昼食をとるようになったのです。あの時の木村利吉議員さんの姿は決して忘れられません。

4月は30日1日の任期です。それでも1ヶ月分の議員報酬が渡されました。当時定数26人なのに4月だけは30人以上の人に議員報酬が渡されました。そこで自分で日割り計算をして余分な分を議会事務局に返しました。事務局は困ったようです。見かねた大先輩の今野昌司議員が「報酬の日割り計算に、条例を変えるから、事務局のお金は受け取れ」と提案してきました。私は先輩の提案を受け入れました。確かにその後、議員報酬は日割り計算になりました。どちらも町民の声援が後ろ盾になっての実現です。

平成18年2月の活動報告

後援会新春のつどい(2月26日)、雨の中33人の参加で、憲法の学習と楽しく懇親

いよいよ今年から急傾斜対策工事が始まります

清水1区川尻地域の住民から長年にわたって「がけ崩れが怖い」「一日も早く対策を」と要望され、元高野町議が議会で何度も取り上げ、数年前には、横田・青野両県会議員と土木事務所の所長さんらが現地調査にこられました。(右の写真)

平成18年度の予算に清水地区の急傾斜崩壊対策事業が組み込まれました。やっと工事に着手です。



ガードレールが つきました

清水1区の伊藤さん前に、ガードレールが設置されました。関係住民から話がされ、高野博からも建設課に要請してきたものです。

高野博のフレッシュ便 NO.4



発行 日本共産党女川町委員会

2006年3月12日(日)

電話 FAX 53-3614

携帯 080 6016 3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi/>

日本共産党女川第二支部の見解と政策を紹介します

- 2月 3日 石巻で会議
- 2月 5日 宮城県党会議
- 2月 7日から8日
鳴子で宮城県日本共産党地方議員会議
- 2月12日 東部地区党会議。
- 2月13日 高白から小屋取まで議会報告「女川民報」を全戸に配布
- 2月14日 桐ヶ崎から指浜まで議会報告「女川民報」を全戸に配布
- 2月15日 江ノ島に議会報告「女川民報」を全戸配布
- 2月18日 川村家の結婚式に出席
- 2月20日 仙台 生活相談で弁護士紹介
- 2月22日 石巻民商無料法律相談に紹介
- 2月24日 共産党後援会の無料法律相談
- 2月26日 女川後援会新春のつどい
- 2月27日 しんぶん赤旗の集金
- 2月28日 仙台から父危篤の知らせ

前号で父の回復振りを紹介しましたが、病状が急変、2月28日午前2時6分気管支肺炎で、帰らぬ人になりました。父生前のご厚情に深く感謝申し上げます。

後援会新春のつどい(2月26日)、雨の中33人の参加で、憲法の学習と楽しく懇談しました



今年の新春のつどいは、残念ながら雨の中で開かれました。それでも33人の参加で、庄司捷彦弁護士の「憲法を守ろう」の話。特に、「法律は国民を縛るもの。憲法は時の政府、権力者を縛るもの」という指摘は新鮮でした。

第二部は懇親会。来春の政治戦での必勝を期し、語り合い、カラオケで楽しみました。

バスツアーは福島市花見山、4月16日(日)会費5千円、日帰りです。多くの友人知人を誘って参加しようと盛り上がりました。



みなさんと力をあわせて、32年間の議員活動から ②

前回は、手弁当と改選月の日割り計算による報酬の改革を紹介しました。

今回は、「ちびっこ広場」「児童公園」についてお話しします。

昭和46年当時は子どもの遊び場などはどこにもあり、子どもたちは夕方暗くなるまで外で遊んでいました。ところが急激な車社会の到来。安全な遊び場をという願いが切実になって、議会で議論し、鷲の神地区や大原地区に「児童公園」が設置され、また遅れて清水地区にもつくられました。その後各部落で「ちびっ子広場」を設置する時は町から補助が出る制度もでき、各地に広がりました。設置当時、多くの子どもたちに利用されうれしく思いました。しかし、子どもの数が急速に減少し、「児童公園」が閑散とし、さびしい限りです。いまこそ、「児童公園」や「ちびっ子広場」で、子どもたちのにぎやかな声が聞こえるような、女川町を取り戻しましょう。



見い平
つ友
けいも
けも
たの
たの



平成18年3月の活動報告

「しんぶん赤旗」が紹介した 子どもが増え続ける町、人口が増える町

兵庫県洲本市五色町

(2006年1月1・8日、新年合併号から)

農漁業の町、五色町は人口1万1千人の町です。町の出生率は1990年の1.72から2000年には1.82へ伸びました。出生率が上昇している自治体として全国から注目されています。五色町は1970年、淡路島で最初に「過疎地」に指定されました。当時の町長は「激しい人口減からどう脱却するか。若い人が定住できる町にと、住民と一緒にやれることは何でもやった」と振り返ります。1990年に1万人まで落ち込んだ人口は、いまや1万1千人まで回復しています。その秘訣は、働く場、住まい、保育充実で若い世帯を支える、20年余りの町の取り組み。



長野県下條村 (2005年6月11日付 日刊紙)



長野県下條村は平成2年に3,859人まで減少した人口を平成17年4227人まで増やしてきた村です。出生率が1993年から97年の平均は1.80、98年から2002年の平均値が1.97と伸び、04年単年では2.59です。全国平均1.29と比べその高さは際立っています。そのカギは格安の村営住宅と中学3年まで医療費無料という、若者定住促進政策。合併浄化槽方式で借金なしで下水道事業を行うなど健全財政を力に。

「しんぶん赤旗」をぜひお読みください。宝物がいっぱいです。

高野博のフレッシュ便 NO.5



発行 日本共産党女川町委員会

2006年4月9日(日)

電話 FAX 53-3614

携帯 080 6016 3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

日本共産党女川第二支部の見解と政策を紹介します

3月の活動は、父の葬儀を仙台で済ませ、町内を中心に、この「高野博のフレッシュ便」と「花見山バスツアーの案内後援会ニュース」を「しんぶん赤旗」の購読者・支持者・後援会員の皆さんに届ける仕事を全力で行いました。これからは月1回定期的に届けられるよう体制をつくりたいと思っています。

今回は人口減少に歯止めをかけた、先進地をご紹介します。いずれ現地を訪ね、詳しく調査して、これからの女川の町づくりに生かしたいと思っています。

たしかな野党の出番です。首相も「ガセネタ」のけじめを

永田前議員と民主党の「偽メール」事件は、折りしも、規制緩和のあだ花「ホリエモン」逮捕や耐震偽造問題、格差是正、牛肉輸入自由化問題など、小泉政治の悪政が噴出し始めた時、自民党と「ニセ改革」の競争をしてきた民主党にとって、問題の本質を突けず、国民不在の対決ポーズをねらった大芝居。

いま「政権交代」「二大政党」大合唱ですが、どちらもどっち。小泉首相だってブッシュの大量破壊兵器の「ガセネタ」でイラク戦争に協力、いますっかりウソがばれても、へ理屈をつけて、自衛隊の派兵を続けている。

このうえ、9条を変えてアメリカといっしょに戦争する国に、トコトン庶民を苦しめる消費税の大増税にと、自民と民主に競われてはたまりません。いまこそたしかな野党、日本共産党の出番です。この党を、もっと大きく、もっと強くしようではありませんか。



みなさんと力をあわせて、32年間の議員活動から ③

いま横浦と大石原の間でトンネル工事が進められています。あの場所を通ったら、ぜひ思い出してください。

昭和61年8月5日 大雨で土砂崩れが発生し、4軒の家がつぶされたことを。

平成14年1月 この惨事の原因が県のズサンな工事と管理にあったことを、最高裁まで15年間かけて戦い、ついに認めさせた人たちがいたことを。

あの戦いが、親戚や友人知人の手で、町政史上はじまって以来の、女川町内有権者の過半数に及び署名を集め、県知事や最高裁に届け、勝利を勝ち取ったことを。

みなさんと力をあわせて、32年間の議員活動から ④

4月保育所の入所式。所長先生はじめ保育士の皆さんご苦労様です。少子化の中で、子育てがいまほど重視されている時期はありません。

「子どもは社会の宝」と語る当時の木村主税町長に、それなら北浦・五部浦の子どもたちに通所バスをと迫り、実現された時の感動は忘れません。

思い出すのは、当時 所長は男子の町職員で、所長を拝命すると左遷されたように受け取られたものです。そこで、保育の専門の方こそ所長にと提言し、保母さんが所長になる道が開かれ、嬉しく頼もしく思っています。



平成18年4月の活動報告

20周年を迎え、チェルノブイリ原発事故の教訓を

町民の安全守る決意、街頭から

今年4月26日は旧ソ連のチェルノブイリ原発事故から20周年。NHKも特集番組をくみました。

高野博元町議は、清水地区で街頭に立ち、いまなお放射能汚染が続き、30キロ圏はいまだに人の住めない土地になっており、次々と被曝者が白血病やガンにおかされ、これからも数万人ともいわれる犠牲者が予想されること、住民の中では染色体の異常が次々と発見され、あらたな悲劇が生まれていること。原発事故は言語に絶する惨禍を生み出すと、訴えました。そして、耐震安全性を厳しく追及し、住民の安全を守ると決意を述べました。



待望の特養ホームができました



保育所の隣に。子どもの声が聞こえる施設

この5月1日から、特養ホームの入居が始まりました。40の定員におよそ125人の応募があったそうです。切実に求められた施設です。

高野博元町議が何度も議会で取上げ、3年前みんなで署名運動を行いついに実現できたものです。全国的に、居住費や食費の自己負担など費用がかさみ、退去せざるを得ない事態が次々と報告されています。女川町では安心して利用できる介護保険制度に改善していきましょう。

高野博のフレッシュ便 NO.6



発行 日本共産党女川町委員会

2006年5月14日(日)

電話 FAX 53-3614

携帯 080 6016 3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

日本共産党女川第二支部の政策と見解を紹介します

4月は阿部律子町議の議会報告「女川民報」の全戸配布に取り組みました。私たちは2週間かけて、清水、大原、女川、宮崎、石浜、北浦、五部浦、江ノ島と約1650枚の配布です。

5月4日、マリンパルで「憲法9条を守りましょう」と署名活動を行いました。石巻市の政治戦。日本共産党、三浦、庄司、水沢の三人にご支援を。

平成18年5月の活動報告

女川原発2号機で配管に穴があく

制御棒にひび、配管に予想以上の減肉、流量計データねつ造

「ステンレス鋼だから必要肉厚 0.44 ミリでよい」などと強弁する東北電力に、「絶対に認められない。穴があく」私たちはくりかえし強く警告してきました。

配管に穴があきました。(写真)いかなる配管であっても穴があくことは絶対に許されません。11名の死傷者を出した美浜原発2号機の配管破裂事故の教訓です。

さらに制御棒にひび割れが続々発見。制御棒は原子炉のブレーキです。設計上の重大な欠陥ではありませんか。

加えて東芝の流量計データ改ざん。なぜ改ざんまでしなければならなかったのか、まったく不明です。



(写真は東北電力のホームページから。配管口径約170ミリ、材質はステンレス鋼)



「愛国心があるところを示してみろ。通信簿につけるから」

「教え子を再び戦場へ送るまい」の決意で

米軍再編・自衛隊と米軍との司令部統合、教育基本法の改定、共謀法、憲法改悪のための手続法(国民投票法)・・・。戦前は教育勅語、治安維持法のもと「天皇のため、お国のために死ね」と教えた教師たち。それが太平洋戦争を支えたのではありませんか。いま「アメリカと一緒に戦争する国」への準備が進められています。天下りや談合など血税を食物にする人々が「愛国心」を押し付ける。厚かましいにも程があります。「戦争への動き」にひとつひとつ、ストップをかける世論と運動を広げましょう。

高野博のフレッシュ便 NO.7



発行 日本共産党女川町委員会

2006年6月4日(日)

電話 FAX 53-3614

携帯 080 6016 3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

5月は最高裁判決による石巻市議選のやり直し選挙でした。

庄司よしあきさんを落としてしまい、残念でなりません。

あらためて、日本共産党の存在意義は「住民の苦難軽減に尽くすこと」と思い知らされました。平和と民主主義を瞳のように大切に、生活の苦難に立ち向かう活動に全力を尽くします。

「構造改革」の政治のもとで、暮らしや福祉、医療への攻撃ががかりに進められています。こうした時だからこそ、専門家の力もお借りし、一緒にがんばりましょう。できれば携帯電話（080-6016-3614）にJJJ連絡ください。

自殺者 8年連続3万人を超える サラ金道場や無料法律相談へ

まったくこの国は異常です。健康上の問題や経済・生活の問題が理由となって自らの命を絶つ人が交通事故の3倍以上なっています。しかも30代40代の方が増えてきています。リストラや不安定な雇用が青年を追い込んでいるようです。格差社会の悲劇です。まさに政治のありようが問われています。身近な相談相手として、ぜひ私共にご相談を。



みなさんと力あわせて、32年の議員活動から

これまで手弁当、報酬の日割り計算、大石原盛土崩壊裁判、保育所の通所バス、所長は保育士へ、旭が丘団地の土地分譲などを紹介してきました。

今回は、固定資産税の軽減についてお話しします。初当選の昭和46年ごろしきりと有識者と言われる人たちから「女川の固定資産税は高すぎる」「固定資産の評価がおかしいのではないか」などと繰り返し指摘され、訴えられました。どこからどう手をつけてよいやら霧の中でしたが、やっと女川町内には固定資産税と一緒に都市計画税が加算して課税されていることをつかみ、木村主税町長に「公園もベンチ一つなく都市計画税とは何事」と論戦を挑み、とうとう昭和54年前後、「都市計画税」の廃止が決まりました。その後約27年間現在も都市計画税分100分の0.2が軽減されているはずです。

のちに稲葉稔議長が「都市計画税を高野さんの議論でやめさせた」と議員控え室で紹介され時、当時課長さんで本会議場で私たちのやり取りを良く聞いておられたのだなの嬉しく思いました。ぜひこうした議論など、議会での活動を語り継いでほしいと思います。

平成18年6月活動報告

原発の配管に穴。私たちの心配が現実 宮城県に厳しく監視を要請

東北電力は、1号機の耐震安全性について、経年変化を考慮しても、すべて「安全」と国に報告をしました。ところがその直後、1号機では減肉が激しく進み、前回点検では5年以上使えるとしてきた配管で、5箇所も1年も持たないことが判明。2号機ではとうとう配管に穴があきました。これでどうして耐震安全性は充分だと言えるのでしょうか。6月16日、宮城県に電力の言いなりでなく「県民の安全を守る立場に立つよう」強く要請してきました。



町県民税、介護保険の 大幅増税にびっくり

町内の婦人から「今年の町県民税の増税には本当に驚きました。私たちは年金暮らしです。それなのに4万円も上がったんです。こんどは国民健康保険税や介護保険も上がってきたらどうやって暮らせばいいのですか。役場にいったら『小泉さんに文句いってください』と言われました。早く議会にもどってがんばってください」と訴えられました。自公政権に怒りを！私たちも全力で頑張ります！

今週の日曜版で特集！
ぜひ お読みください

高野博のフレッシュ便 NO.8



発行 日本共産党女川町委員会

2006年7月2日(日)

電話 F A X 0225-53-3614

携帯 080-6016-3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>



六ヶ所村原子力発電所視察

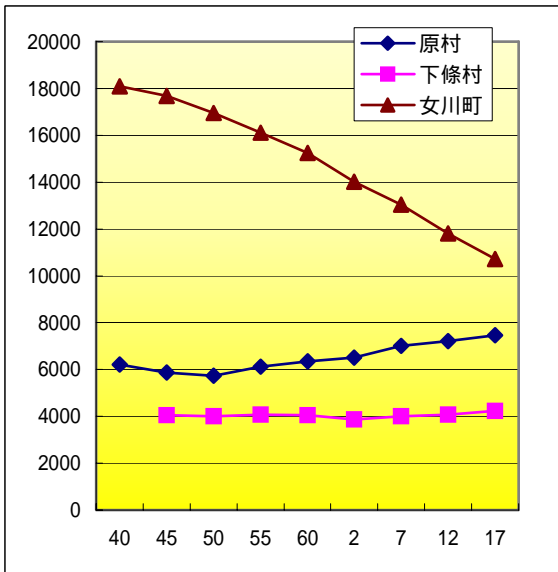
6月6・7日 日本共産党の横田有史・青野登喜子両県議とともに六ヶ所村再処理工場の視察してきました。

6月16日 宮城県への申し入れ

6月20日 阿部律子さんの一般質問を議会傍聴してきました。

阿部律子町議と高野博夫妻 長野県に行政視察 7月3日から5日まで、原村と下條村に

毎週木曜日
高野博の生活相談日



目をおおいたくなるような、女川町の人口減少の激しさ。

一方 長野県原村（人口 7,460 人）のグラフをご覧ください。昭和 50 年まで減少、そこから着実に増えています。

また、長野県下條村は、若者の定着と子どもの出生率の高い村として、しんぶん「赤旗」で紹介されると、朝日新聞、週刊誌「女性セブン」、テレビでも報道や放映。まさに全国の注目の的 です。

今回、実際に現地で直接学んできます。

水揚げされたばかりの鮮度のよいカツオ・マグロ・サバなどを中心に缶詰を生産している山ヨ水産



写真は「女川町町政要覧」から

みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑦

昭和 60 年、輸出産業である缶詰業界は円高の影響をもろに受けていました。山ヨ缶詰も例外ではありませんでした。しかし、働く人々は職場の確保と退職金など権利を守るため、はじめて労働組合をつくり、会社と交渉、きちんと賃金や退職金を仲間全員勝ち取ることができました。私は議会で山ヨの存続を訴え、必要なら公害施設への財政支援も提案、一方、工場長を同伴、宮城生協を紹介し販路の拡大に努力しました。

閑散とした魚市場を見るたび、山ヨ缶詰を失った女川町の打撃の大きさを今更のように感じます。

あの時頑張った仲間の元気な姿は忘れられません。

悪質なデマ宣伝は許せません

温泉の中で、「高野さんやりっちゃん、誰々に生活保護を取ってやるからスカネ」とのうわさ話です。見かねた人々が口々に「共産党の議員さんは必要だからお世話をす。スジの通らないことはしないはずだ」「きちんと調査をして保護が必要と決めたのは県の人だ。何で高野さんや律子さんの悪口になるのや」と反撃してくれたそうです。

庄司よしあきさんが繰り上げ当選。「良かったね」と会う人々から言葉を。本当に嬉しいです。

平成18年7月活動報告

東北電力最悪の「C」評定、安全管理があまりにズサン

7月27日、東北電力へ公開質問状を提出。28日は宮城県へ申し入れを行いました。

私たちは指摘してきました。

●このままでは配管に穴が開くと
⇒2号機でやはり配管に穴が開く
余寿命1年未満も次々と。

●隠し事はないのかと

⇒3号機で配管番号等誤記表示が
122箇所。やっと明らかに。



7月28日、県原子力安全対策室へ



7月27日 東北電力本社で

私たちの要求。反省するなら全ての配管の総点検を！穴をあけ、必要肉厚を確保できず、何が「耐震安全性は妥当」か！

長野県、下條村・原村視察(その2) (7月3日～5日)

「女川民報」で下條村と原村の人口・若者定住対策の視察を紹介しました。ぜひご覧下さい。

原村は、各種検診と65歳以上の老人医療費の無料化を行い、早期発見早期治療で医療費の軽減に努力されていました。

下條村は、元気なお年寄りの介護予防のためのデイサービスセンターやリハビリプール、診療所を併設した施設を約8億円でつくり、老人医療費を長野で最低に抑えているとのこと。



リハビリプール



デイサービスセンター



いきいきらんど下條

高野博のフレッシュ便 NO.9

発行 日本共産党女川町委員会



女川II支部の見解を紹介します

2006年8月6日(日)

電話 F A X 0225-53-3614

携帯 080-6016-3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

アンケートにご協力をおねがいします



7月末からアンケート用紙を配布し、わずか10日あまりで90通のご回答をいただきました。郵便局の方も驚いています。本当にありがとうございます。

引き続き数多くの町民がご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

チェルノブイリ原発事故20周年 現地調査に



8月27日から9月4日まで

毎週木曜日 高野博の生活相談日

8月27日 成田からモスクワへ
8月28日 ミンスク 放射線医学研究所
8月29日 ミンスク 放射線管理センタ
8月30日 ゴメリ 高濃度汚染地域測定
8月31日 チェルノブイリへ
9月1日 チェルノブイリ4号機見学
9月2日 キエフ放射線医学研究所
9月3日 モスクワ 出発まで自由行動
9月4日 成田着

何しろ女川原発は最低ランクの「C」
評定。いつ美浜のような大事故になっ
てもおかしくないズサンな安全管理
です。「耐震安全性」も大問題です。

この際、あの悲惨なチェルノブイリ
原発事故の実態、20年たった現在の
様子をこの目で見て、皆さんにご報告
したい、そんな思いで原発問題住民運
動全国連絡センターの視察旅行に参
加します。この視察には宮城から庄司
捷彦弁護士、横田有史、青野登喜子両
県議と高野博の4人が参加予定です。



「ふるさと映像館」より
昭和62年4月撮影 女川町心身
障害者通所授産所「うみねこ園」
開所（女川町教育委員会資料）

みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑧

須田善二郎町長時代の話をして。勿論原発問題では、
意見が真っ向からぶつかり合いました。しかし、ある時、
須田町長は「あなたと意見は違う。でもあなたの意見を
封じるものには私は命を懸けて戦う」と本会議で表明し
ました。理由もなく「共産党だからダメ」という風潮の
中で見識ある態度でした。

その須田町長は、石巻民主商工会女川支部の麻生豊支
部長（当時）が署名を集めた「無担保無保証人の小口融
資制度を求める陳情書」に、「良いものは誰であっても良
い」と語ってくれ、小口融資制度が実現しました。

みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑨

昭和60年代当時、女川町心身障害者通所授産所「うみねこ園」の実現に、親の会をは
じめ多くの方が全力で取り組んでおられました。私も請願書の紹介議員にと要請され、
それ以来の「親の会」の皆さんとのお付き合いです。上の写真のように旧郵便局で開所。
その後第二保育所跡に移転し、いまでは地域福祉センターに落ち着きました。いま障害
者自立支援法の下で新たな課題が……。これからも苦楽を共にしたいと思っています。

平成18年8月活動報告

人工放射性物質のヨウ素131を検出！ 徹底した原因究明を！

町民の声・声・声

- 「食べ物だから心配です」
- 「どこからヨウ素131が出てくるのですか。」
- 「女川原発は1年も止まっているのに」
- 「定期検査は何のためにやっているの」
- 「海で生きる女川なのに、本当に困る」
- 「どこのワカメと聞かれて困りました」
- ・ ・ 不安が・怒りが口からほとばしります。



8月8日 日本共産党女川町委員会として

「3週間も通報しないとは」と厳しく批判。(女川原発)

これまで181通の回答です。ありがとうございます。
引き続き、アンケートにご協力をおねがいします(8月23日現在)



「町内だけでなく離島の高齢者の事も考えてほしい。
(島内で安心して暮らせるように)」
「原発の安全対策とアクセス道路、一緒に考えるべき」
「医療費の負担がとても重い。せめて、小学校を卒業するまでは無料にして欲しい」
・ ・ ・ ・ ・
こうしたご意見ご要望が、私たちの元気の源です。
ぜひ多くの方の率直なご意見をお寄せください。
アンケート用紙必要であればご連絡ください。

高野博のフレッシュ便 NO.10

発行 日本共産党女川町委員会



女川 支部の見解を紹介します

2006年8月27日(日)

電話 F A X 0225 -53 - 3614

携帯 080-6016-3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>



日本共産党
紙 智子参院議員

9月8日
女川原発視察に

9月8日 女川町議会の開会中ですが、相次ぐ配管の減肉やヨウ素131の検出、耐震安全性など 住民の安全にとって深刻な問題をかかえる女川原発を視察し、女川町や石巻市を訪問します。

8月6日 核兵器廃絶の願いをこめて 街頭からの訴え 町内10箇所

毎週木曜日 高野博の生活相談日

8月27日の日曜版には「第2弾 軽減できます
税負担、まだある制度活用法」が載っています。
ぜひ参考にしてください。よろしければ「購読く
ださい。連絡先は(53)3614へ



広島にアメリカの原爆が投下され
て六一年。核兵器をなくせ、被爆者の
支援をいっそう強めようと訴えまし
た。

また女川原発の前面や周辺海域で
放射性ヨウ素131が検出されまし
た。

国から総点検指示を受けた直後に
もかかわらず、宮城県に3週間も通報
しなかった東北電力。ここにも住民の
安全を無視する東北電力の体質が示
されています。

真相究明を求め頑張る決意を述べ
ました。

いつも真剣

高野博の活動を語り継いで下さい。



みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑩

北浦をはじめ女川1中への遠距離通学者のバス代の補助は半額だったと思います。私は「教育の機会均等から絶対におかしい。全額補助を」と繰り返しせまり、その後3分の2になり、現在の平塚総務課長が教育委員会庶務課長の時、全額公費負担になりました。

また、中学校の学校給食の実現をと議会で取り上げた時は、多くのお母さんから本当に感謝されました。毎日毎日のご苦労があったのだと思います。商売に影響するだろうと心配でしたが、地域のお店の人に「いまどき給食は当然よ」と言われ、ほっとしたのも事実です。

みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑪

一時女川町から保健師さんが1人もいなくなった時があります。本当にショックでした。その時教えられたことは、保健師さんはその道の専門家。その専門的能力を生かした活動が保証されること。このことを教訓に保健師確保のための奨学金制度を提言し全力で取り組みました。そして女川町は全国的にも評価される保健活動が展開されました。

いま介護保険や地域支援センターなど制度が次々と変わり、保健師への仕事の負担も多くなっていることでしょう。本来の保健師の活動が出来るのか不安がよぎります。

平成18年9月の活動報告

チェルノブイリを訪ねて

私は女川原発の数々のズサンな安全管理体制を見て、危機感をいただいていた。チェルノブイリ原発事故 20 年現地視察(8 月 27 日から 9 月 4 日 9 日間)の誘いがありました。

あの原発事故の真実の姿をつかみ、町政の場でがんばろうと決意し、参加しました。

見てきたものは深刻な実態でした。チェルノブイリから 30 キロ圏はこれからも半永久的に人の住めない土地。汚染地域の小麦は人間の食料には出来ないとのこと。事故現場の敷地は東京の 600 倍もの放射線量でした。傷みが激しい石棺。1300 億円をかけ第二石棺の建設が計画されていました。その工事で新たに莫大な被ばく者が出ると予想されます。

子供たちの甲状腺障害が増えはじめ、内部被ばくや遺伝的影響など新しい課題も提起されました。今もこれからも、人類の悲劇が続いていること、どの医療機関からも検査・測定器具の不足を訴えられました。

「日本や女川では、あんな事故は有り得ない」と、国としての過酷事故対策はありません。しかし、原発の大事故が一度起きたら地域の崩壊、数々の疾病への恐怖、まさに数百万人の生涯をかけた大惨事なります。

絶対に大事故を起こさせてはならない！そのために徹底した情報の公開と住民の厳しい監視、原発推進の経済産業省から独立した国の規制機関が必要だと思います。

今こそ真剣に住民を守る女川の町政が求められています。



爆発事故を起こし炎上している 4 号炉の空からの写真(当時)



4 号炉の前に立つ



被ばくした青年から話を聞きました

高野博のフレッシュ便 NO.11

発行 日本共産党女川町委員会



女川 支部の見解を紹介します

2006 年 10 月 8 日(日)

電話 F A X 0225 -53 - 3614

携帯 080-6016-3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

9月22日石巻市で報告会をしました



文化センターに 50 人の参加でした

9月8日 紙智子参議院議員 女川原発へ

毎週木曜日 高野博の生活相談日



日本共産党の紙智子参議院議員は9月8日、東北電力を訪れ、ズサンな配管管理や品質保証体制、よう素131、通報の遅れなどを実態調査し合わせて女川町、石巻市の首長と懇談しました。

この調査には、高野博前町議をはじめ、加藤幹夫党自治体部長、横田有史、青野登喜子の両県議、庄司慈明石巻市議などが参加しました。

女川町長との懇談の席には、議会終了した阿部律子町議も同席しました。



いつも真剣

高野博の活動を語り継いで下さい。



みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑫

9月は敬老会が行われました。女川町には管内最高高齢者がおられ、心からお喜び申し上げます。

かつて、江ノ島に常任委員会視察でお伺いした時、島の方から「100歳になったら100万円出して頂けないか」と提案がありました。議会でその声を紹介し、その後町当局の決断で100万円支給することになりました。

また本当に昔話ですが、鷲神で区の老人クラブの会長をされていた高橋淳さん(故人)から「金婚式を迎えたご夫婦に町としてお祝いを」と提言され、私もぜひ実現したいと思い議会で取り上げました。いまでは何十組とお祝いされる姿を見て、本当に良かったと思っています。

永平寺に行ってきました

9月10日から12日、88歳の母のお祝いのかねて兄弟夫婦で永平寺に行きました。永平寺で亡き父の供養をし、帰りに金沢の兼六園を見ってきました。そのときの写真です。



平成18年10月活動報告

大しけ被害救済を国に要望

現地に来て見てください

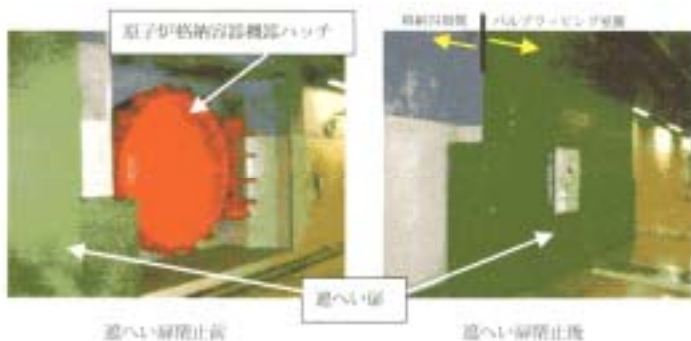
10月16日、高野博前町議は紙智子参議院議員とともに、農水省との交渉。「いまだに遭難した漁船の乗組員全員が発見されず、カキ、ホタテなどの養殖被害の状況調査も出来ない状況だ。現地に来て国として責任をもって救済策を行って欲しい」と訴えました。

11月2日現在、女川町だけでも漁船の転覆70隻、カキ ホタテ等の落下被害は7億円を超え、施設被害も甚大です。



紙議員とともに農水省に養殖内閣府にも要望する高野前町議 (18日)

原子力安全・保安院の住民説明会 高野博前町議、内部告発を公表、調査を求める



上の写真は2号機の原子炉格納容器と遮へい扉です

10月28日に行われた原子力安全・保安院の住民説明会で、高野博前町議は「昨年12月、3号機の原子炉格納容器と遮へい扉の間に、大人の手のひらが入る隙間があった」という内部告発があったことを公表、安全保安院に調査を求めました。

阿部律子町議は「配管に穴があいた2号機での耐震安全性を『妥当』とした判断は間違い未点検の配管が必要最小肉厚を確保していることを証明してください」と追及しました。

高野博のフレッシュ便 NO.12

発行 日本共産党女川町委員会



女川 支部の見解を紹介します

2006年11月19日(日)

電話 F A X 0225 -53 - 3614

携帯 080-6016-3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

10月1日から5日、20、22日

地区懇談会・議会報告会

10月10日から22日

議会報告、アンケート結果報告を配布

10月11日 原生会

10月14日 中川美保演奏会

10月16日 対政府交渉

10月21日 原発耐震学習会

10月24日 原発防災訓練 視察

10月26日 石巻労連定期大会挨拶

10月28日 原発住民説明会

阿部律子町議とともに、7会場でチェルノブイリ報告 議会報告

毎週木曜日
高野博の生活相談日



女川、川尻、伊勢、大原、尾田峰、浦宿、旭が丘で、のべ100人の方が参加しました。

高野博前町議はスライドを使い、チェルノブイリ原発事故当時の写真など、生々しい状況を報告。だからこそ「女川では絶対に事故を起こさせてはならない」と話し、参加者は真剣に耳を傾けていました。

いつも**真剣**

高野博の活動を語り継いで下さい。



みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑬

女川原発問題で、県議会議員との連携が大きな力を発揮した実例をご紹介します。

(1)昭和50年代、当時沖直子県議でした。沖県議の『ひたすたに歩みつづけて』という本から紹介します。「女川原発問題でも、原発敷地内に県道がとり込まれて、電力がかこみこんでいることが判ったことがあります。県道はまさに犬の道になり、バラ線で人間は入れなくなっていました。これも地元の人から教えられ、調査の結果とんでもないことと追求して、山本知事もあわてて電力に立派な迂回路をつくらせたこともありました。県道の起点と終点は県議会の承認事項で、路線変更は議会にかけなければならないのです」と。私も一緒に調査しその実態に驚きと怒りでいっぱいでした。

(2)チェルノブイリ原発事故で子ども達が甲状腺ガンに苦しむ姿をご覧になったと思います。緊急時にヨウ素剤を投与し、放射性ヨウ素の取り込みを防ぐことが大切です。そこで青野登喜子県議が学校や保育所にヨウ素剤を配備するよう迫りました。浅野知事は「医者が必要」と答弁。青野県議は「出島、江ノ島の診療所には医師がいる」と指摘し、知事は検討を約束。こうして診療所にヨウ素剤が配備されました。

喪中につき 新年のご挨拶は失礼させていただきます

2006年11月 高野 博

平成18年11・12月活動報告

また発覚、東北電力も温排水のデータ改ざん

「あきれた！もうこのまま原発は動かさないで欲しい。
（女川原発を）つくった時から間違っていた」
「電力が改ざんを指示していた。しかも今回の総点検の時はこの事実を隠し、東京電力が公表すると、しぶしぶ東北電力も公表する。それで『反省』と言え、今回も納得してもらえと思っているのか。今度は違う」
「環境基準である温度差7度を守るために、データの改ざんとは言語道断。実際に温度差を減少させる取り組みこそ必要。ルールを無視した安全軽視の体質が恐ろしい」
「もっとあるのではないか」 町民の怒り、沸騰です。



11月19日東京 原発全国連絡センターで宮城の活動を報告

「教育基本法改悪反対、データ改ざんの責任は重大」と街頭演説

子ども達を戦場に送るまい！これが戦後教育の原点です。その要が教育基本法です。いまそれが改悪され国による「愛国心」の強制と、国による競争と選別、統制と管理強化が推進されようとしています。ますますいじめや教育の荒廃が心配されます。日本共産党は教育基本法の改悪を許さず、慎重審議を求めます。データ改ざんは原発の安全の基礎と、住民との信頼を根本から破壊した行為です。いまその責任が深刻に問われています。このピンクのヤッケは美里町議選で二議席確保した福田淑子町議からいただきました。これを着て、私たちががんばります。



12月8日、16日にも

高野博のフレッシュ便 NO.13

発行 日本共産党女川町委員会



女川 支部の見解を紹介します
2006年12月17日(日)
電話 F A X 0225 -53 - 3614
携帯 080-6016-3614
takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

「高野博のフレッシュ便」ご愛読ありがとうございます。おかげさまで1年が経過しました。

町議のバッチはありませんが、現職であった以上に忙しく駆け回りました。これも皆様のご支援ご協力のおかげです。

1日も早く阿部律子町議と一緒に町政の場で働けたらと決意し、がんばっています。

高野博・阿部律子合同後援会・忘年会に42人参加

毎週木曜日
高野博の生活相談



12月3日庄司捷彦弁護士を迎え合同後援会の忘年会を開き42人が参加。阿部律子町議と高野博から来春のいっせい選挙の決意が述べられました。踊りやカラオケが行われる中、「頑張ろう」「もう失敗できない」と励ましが飛び交う暖かい雰囲気でした。

いつも真剣

高野博の活動を語り継いで下さい。



みなさんと力を合わせて、32年間の議員活動から ⑭、⑮

女川町の水道料金が宮城県でも1,2位を争うくらい安い水準を保ってきたのは、町民の世論と歴代の水道課長を含め執行部の努力だったと思います。30数年の間2回くらいの値上げでした。また、石巻地方広域水道への不参加も、安い料金に抑えられた大きな理由だったと思います。

四年前、当時の平塚基水道課長が役所の机から、30年以上前のガリ版刷りの「女川民報」(水道料金値上げ反対特集)を取り出し、見せられた時は本当に驚きました。執行部の中には、資料として大切に保管され、私たちの主張を生かして下さった方もおられたこと、本当に勇気つけられました。

いま「女川民報」は議会報告を中心に編集していますが、これからも歴史に耐えられる政策を提案していく決意です。

20年以上、皆さんと実現を求めてきたものに、公共下水道事業があります。現職のある議員さんから「高野さんは公共下水のこと、ひとりですっと主張していたね」と言われたことがあります。いま着々と事業が進んでいるのを見て感慨ひとしおです。

佐々木透元石巻市議会議員には大変助けられました。町単独で最終処理場まで用意するとしたら、経費の面からも地元同意の面からも困難だったのではないのでしょうか。

女川原発の配管減肉問題では、この一年県や国、東北電力との交渉をのべ11回行いました。そして、代表部位のみの点検を改めること、30年を15年かけてすべて点検すると変えさせたことは、住民の安全から貴重な前進でした。また、女川町議会に続き石巻市議会が「安全保安院の経済産業省から分離独立を求める」意見書の採択も重要な成果です。

平成19年1月 活動報告

希望ある年に、ご一緒にがんばりましょう！



新年いかがおすごしですか。
今年には町議会選挙、参議院選挙の年です。
南米では選挙によって、次々と革新政権が誕生しています。
世界は大きく動いています。
国政でも、町政でも、日本共産党の躍進で、暮らしを守る力を大きく伸ばし、希望ある年にしようではありませんか。
高野博は1月9日街頭に立ち「町政めざし力の限りがんばります」と新年のあいさつを行いました。
みなさまのご指導ご支援をよろしく申し上げます。

原発労働者の内部告発は真実でした

昨年10月28日に行われた原発の住民説明会。その席で高野博元町議が「原子炉格納容器と遮へい扉の間に、大人の手のひらが入るほどの隙間が出来た」との作業員の内部告発を紹介し、原子力安全保安院に調査を求めました。今年に入り、原子力保安院はホームページでその報告書を明らかにし、「平成17年12月に遮へい扉に隙間が出来た」ことを認めました。内部告発は真実でした。放射線漏れが心配です。詳しい説明と運転を停止し、もう一つの扉の点検も強く求めます。



女川原発3号機 地下一階

高野博のフレッシュ便 NO.14

発行 日本共産党女川町委員会



女川 支部の見解を紹介します
2007年1月21日(日)
電話 F A X 0225 - 53 - 3614
携帯 080-6016-3614
takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

日本共産党演説会
2月17日(土)夜7時より
生涯教育センター大広間

参議員 紙 智子
町議 阿部 律子
元町議 高野 博

ぜひ多くの方々の
ご参加をお願いします

感銘を受けて



町広報 2007年1月号より



横田夫妻は、取り組んできた活動の足跡をたどった

石巻日々新聞 11月29日より

昨年11月、2つの講演を聴きました。深い感銘を受けました。
今野順夫福島大学学長の話に・・・

今野先生と私は東北大学で同期でした。先生は法学部で、私は教育学部でしたが、先生は優秀な学生で多くの学友から「Jコン」(法学部の今野さんという意味)と呼ばれ慕われていました。先生は、山火事で多くの動物たちが逃げる時に、ハチドリは口ばしに水を含んでは燃える火に落とし続けたという「ハチドリのひとしずく」(アマゾンに伝わる童話)の話をし、ハチドリの「私は、私にできることをしているの」という言葉で、小学生にわかりやすく、自分ができることを行う勇気と大切さを教えてくれました。

拉致被害者の会 横田滋・早紀江夫妻の話に・・・

北朝鮮による拉致は絶対に許せるものではありません。

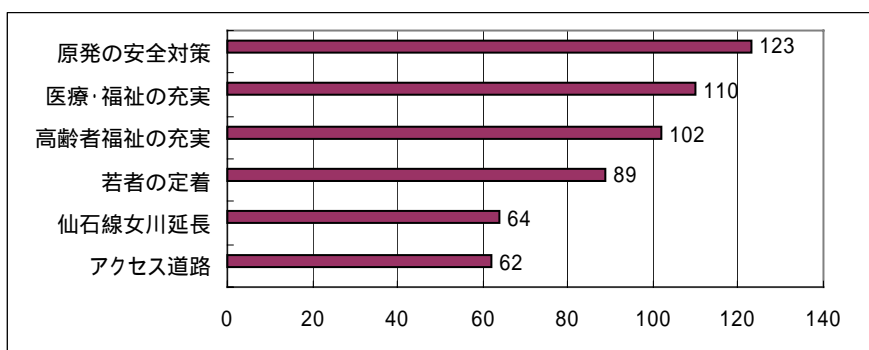
横田さんが経過の中で日本共産党の橋本敦元参議院議員の調査活動を紹介しておられました。ご夫婦で30年間も心血を注ぎ訴え続け、世論を動かし、政府を動かしてきたひたむきな姿に本当に胸が締め付けられる思いでした。

人の意思に反し、力づくで人生を奪う拉致事件。国家権力が起こした犯罪。これを正す力は世論しかないと思います。世界中の世論で包囲することではないでしょうか。

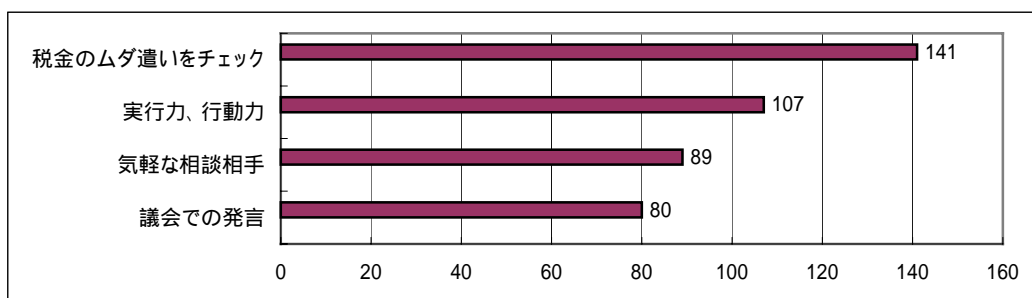
アンケート (回答194通) をもとに町政政策をつくりました

いま議会報告と基本政策(骨子)をお届けしています。ご意見ご感想をお寄せいただければ幸いです。

アンケートより <力を入れて欲しい施策は> (複数回答)



アンケートより <町議会・議員に望むものは> (複数回答)



国によるくらし破壊の悪政から、町が町民の医療や福祉、くらしを守る防波堤に。特に若者の定住や子育て支援の充実で人口流出に歯止めを。地場産業の振興と原発の安全対策、緊急避難道路の整備と仙石線女川延長などをはじめ、身近で切実なみなさんの願いがいつばいです。ご一緒に頑張りましょう。

平成19年2月 高野博活動報告

史上最高

142人の参加

大きな励ましをいただいた、2・17演説会

悔しさをバネに 全力でがんばります。

日本共産党の2議席確保なるかが、女川町議選の最大の焦点です。そんな中で142名の参加で開かれた日本共産党演説会。会場いっぱい「今度こそ勝たせよう」と熱気あふれました。高野博元町議は、前回の悔しさをバネに全力でがんばると決意をのべ、阿部律子町議はひたむきにがんばってきた実績と、2議席への決意を語りました。国会情勢でどうしても参加できなかった紙智子参議院議員から激励のメッセージが届きました。



清水・川尻地区急傾斜対策事業 19年度着工に

2月14日 県土木事務所で説明受ける



かねてから清水川尻地区住民の要望であった、急傾斜対策事業が19年度工事に着工、23年度完成をめざします。これは2月14日高野博元町議が県石巻土木事務所で担当者から説明を受けたものです。

高野博元町議が、何度も町議会で当該地区の急傾斜対策地域指定と、工事を強く迫ってきました。

高野博のフレッシュ便 NO.15

発行 日本共産党女川町委員会



女川 支部の見解を紹介します

2007年2月25日(日)

電話 F A X 0225 - 53 - 3614

携帯 080-6016-3614

takano44@image.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~takanohi>

2月から毎週金曜日 朝のあいさつ活動

7時～8時浦宿で。見かけたら
よろしくお願いします。



日本共産党のすばやい申し入れで、延期に。相次ぐデータ改ざん、住民の不安は深刻に。



温排水のデータ改ざんに続き、東北電力は 2 月 7 日、低レベル放射性廃棄物の放射線測定値の誤りを日本原燃から指摘されました。

私たちは「9 日の広域消防との合同消防訓練を放射線管理区域で行うことは延期すべき」と、8 日緊急に東北電力に要請しました。

また 2 月 16 日、使用済み核燃料でデータの誤りを東北電力が発表しました。14 年間も続いていました。いま、同社の放射線管理の根本が問われています。

女川原発 合同消防訓練を延期 廃棄物搬出の遅れ受け

東北電力女川原発（女川町、石巻市）は 8 日、放射線測定値を測定する検査装置の設定ミスに伴う低レベル放射性廃棄物の搬出延期を受け、石巻地区消防本部と合同で 9 日に予定していた原発での消防訓練の延期を決めた。訓練は、原発の自衛消防隊と女川消防署などが参加し、管理区域内地での情報伝達訓練も行う予定だった。電力は「外部から参加する消防関係の方々に廃棄物搬出の延期について説明した上で実施したい」としている。9 日は自衛消防隊のみで訓練を行うという。訓練の延期については、共産党東部地区委員が 8 日、東北電力に

原発労働者の内部告発は真実でした

昨年 10 月 28 日に行われた原発の住民説明会。その席で高野博元町議が「原子炉格納容器と遮へい壁の間に、大人の手のひらが入るほどの隙間が出来た」との作業員の内部告発を紹介し、原子力安全保安院に調査を求めました。今年に入り、原子力保安院はホームページでその報告書を明らかにし、「平成 17 年 12 月に遮へい壁に隙間が出来た」ことを認めました。内部告発は真実でした。放射線漏れが心配です。詳しい説明と運転を停止し、もう一つの壁の点検も強く求めます。



前号の「フレッシュ便」で内部告発が真実だったと紹介し、もう一つの扉も不具合があるのではないかと指摘したところ、2 月 9 日付河北新報によれば、東北電力はもう一つの扉の不具合もしぶしぶ認めました。いったい、いくら隠し事があるのですか。

「放射線管理の体質が問われる中、管理区域に外部の人を入れての訓練はすべきではない」と申し入れた。 電動扉 2 カ所で不具合見つかる 女川原発 3 号機 東北電力は 8 日まで女川原発 3 号機（女川町、石巻市）の原子炉格納容器にある二つの電動扉に不具合が見つかり、補修した。電力によると、一カ所は二〇〇五年十二月、定期検査中に約二センチのすき間があるのが分かり、起動前の〇六年一月に補修。別の扉は〇六年十一月、中間停止中に車輪の不具合を見つけ直し、電力は「いずれも通常補修の範囲内、国の検査官には口頭で説明している」とし、経済産業省原子力安全・保安院への正式な報告はしていない。保安院は〇五年十二月に見つけた件について東北電力の見解を求めた上で「扉と床の間に何らかのものを挟み込んだ状態で閉鎖したことが原因とみられる。特に安全上支障はない」として公表していないかった。

(2 月 9 日 河北新報)

2月14日 浦宿駅踏切前の死亡事故を受け、安全対策を要望



8 年前から地域住民とともに高野博元町議や阿部律子町議が要請してきた浦宿踏切付近の右折レーン設置がやっと実現しました。

しかし残念なことに最近、死亡事故が起き、直ちに 2 月 14 日、三浦一敏石巻市議とともに、県土木事務所に安全対策を要望しました。